

**事業所名** グループホーム 夢楽園

日付 平成 20年 10月 7日

**評価機関名** 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 介護福祉士・介護支援専門員  
 健康運動指導士  
 実務経験10年以上

[自主評価結果を見る](#) (工事中)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

**講評**  
 全体を通して(特に良いと思われる点など)(記述式)

閑静な住宅街の中にある木造2階建の施設は、周囲の家屋に融和した建物になっている。木のぬくもりを活かした木造である施設には、南向きで大きなガラス張りの窓を配したリビングがあり、そのリビングから広いウッドデッキに出ると、冬は日光浴 天気の良い日には食事会や歩行訓練などができる。

介護する側と介護を受ける側という硬直した枠組みから解放されたところから利用者の自己決定を大切にした介護を発想しているため、タイムスケジュールを決めない介護というものを志向している。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

食事の前に口腔の体操をしているが、1年以上同じDVDを使用している。マンネリ化を防ぎ、楽しんで体操が続けられる工夫が求められる。また、転倒予防のためのバランス能力や筋力の低下を防ぐ機能訓練が十分とはいえないので、もっと日常的に取り組む必要がある。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	入居者が毎日「笑顔があふれる」こと。そして、職員は、その人の気持ちになって「寄り添う」ことを目指している。また、家庭的な雰囲気の中でなじみの関係をつくり、穏やかに生活していただける環境づくりを目指している。 一人ひとりを大切に、「みんなが主役」の生活づくりをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員が順番に1日かけて利用者の気持ちになって利用者体験をし、そこで集められた感想や聞き取りなどを基に、データ(うるさく感じる音や不快な表現)化して業務の見直し時に使用している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	写真など個人を特定できる情報が外部に漏洩しないよう注意している。また、リビングにはカメラが設置しており、家族はWeb上の動画と音声で、入居者の様子を確認できる。カメラはパスワードにより管理されており、漏洩防止にもなっている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	事故やヒヤリハットの事例を記録し、分析して、事故を未然に防ぐための対策に活かしている。		